

富士市教育委員会 7月

定例会  
臨時会

会議録  
(令和6年)

開催日

令和6年7月23日 火曜日  
開会 13時30分  
閉会 16時19分

会議場

市庁舎5階  
第3会議室

出席委員の氏名

教育長	森田嘉幸	委員	塩谷知一
教育長職務代理者	和久田恵子	委員	保科悦久
委員	松田靖子		

出席職員等の氏名

教育次長	味岡俊雄	教育研修・特別支援教育センター所長	檜木小重美
教育総務課長	佐野睦昭	青少年相談センター所長	田中亘
学校教育課長	若田泰一	博物館長	石川武男
学務課長	鈴木秀江	教育総務課調整主幹	小長谷聡
社会教育課長	吉田和洋	教育総務課参事補	吉村直也
文化財課長	植松良夫	教育総務課主幹	遠藤綱輝
中央図書館長	桑原正壽	教育総務課指導主事	瀧南
富士市立高等学校事務長	榎俊英	教育総務課指導主事	遠藤真輝
富士市立高等学校副校長	飯嶋雄三	傍聴人	5人

議題（動議）及び議事の概要

（議案）

議第29号 富士市立中学校教科用図書採択について

議第30号 富士市立高等学校教科用図書採択について

作成者 遠藤真輝

署名人



## 「開会」

教育長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから教育委員会会議、7月定例会を開会致します。

## 「会議録の承認」

教育長

会議に入る前に、前回の6月定例会、会議録の承認を行います。会議録については、既にお目通しのことと思います。前回の会議録を原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

原案のとおり承認することといたします。

## 「教育次長の報告」

教育長

続きまして、教育次長から報告等がありましたら、お願いします。

教育次長

富士市議会6月定例会が6月13日から28日まで開催されました。教育委員会に関連した一般質問は、6人の議員から7件ありましたが、答弁要旨につきましては、本日、お手元に配布させていただきましたので、後ほどお目通しをお願いいたします。以上です。

## 「議事の概要」

教育長

これより、議事に入ります。本日は議決案件2件が提案されております。本日の定例会の会議録の署名人を指名いたします。塩谷知一委員と保科悦久委員をお願いします。

それでは、初めに、議第29号「富士市立中学校教科用図書採択について」を取り上げますので、事務局の説明をお願いします。

学校教育課長

（議第29号 富士市立中学校教科用図書採択について、採択案に至るまでの経緯を説明する。）

教育長

ただいま説明していただいた、採択までの流れについて質問等はございますか。質問がないようでしたら、それぞれの教科書の内容について事務局から説明していただきたいと思っております。

## 学校教育課長

(国語及び書写の教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは、委員の皆様には、事前に全教科書会社の教科書を御覧いただき、各社の特徴については学んでいらっしゃると思いますので、そこで感じられたことも併せて、御意見等がございましたらお願いいたします。

## 塩谷委員

今回、推薦いただいたこの教育出版の教科書も含めて見させてもらったのですが、やはり国語なので、日本人として、母国語をこの時期に正確に学び、人に伝えるため正確な言葉づかいをするというのは、時代が変わっても求められることだと思っています。なおさら今は国際化で、英語だとか外国語が大事だといわれている時代だからこそ、自分の母国語をしっかりと学ぶという視点で見させてもらったときに、巻頭にある、加藤周一さんが1年生の教科書において「言葉とは何か」、2年生の教科書において「言葉の楽しみ」、3年生の教科書において「日本語の特徴」という形で、日本語がなぜ大事なのか、言葉の勉強はなぜ大事なのかということをシンプルなエッセイで記載されていました。その伝える言葉というのが全編にわたって貫かれているという印象から、子どもたちに使ってほしいなと思ったのと、教科書に込められた加藤周一さんの想いというものをぜひ先生方にも噛みしめて教えていただければ、非常に良い国語教育になっていくのかなと。期待をすごく持てる教科書であるというのが1点です。また、他の教科書もちろんそうなのですが、この書籍には「広がる本の世界」という項目が散りばめられておりまして、この時期に読むべき本としてどのようなものがあるのか、非常に色々な選択肢で紹介されていて、その紹介の仕方というのが、他社と比べてバラエティに富んでいて、数も多いものですから、読書に触れる助けにもなるのかなとも思いました。そういった意味で中学生に学んでほしい日本語の本質というものを伝えるにはふさわしい教科書かなという感想を持っています。

## 教育長

ありがとうございました。今、お話の中で、国語としての言葉を、非常に教科書の中で大事にされているということで、富士市の子どもたちに国語を大事にしていきたいという、委員の想いも反映されているということですね。他にはいかがでしょうか。

## 和久田委員

全教科書会社のものを読ませていただきました。選択としては教育出版の学びナビのところで、文章を読んでいくときに先に説明とか理解度を上げて読んでいくと、言いたい事柄が分かりやすくなっているの、そこが非常に良いなと思いました。また、先ほど塩谷委員からお話がありましたが、SDG

sの観点から、マークがふんだんに入っていて、持続可能な社会を作っていくというのは道徳的なことかもしれませんが、教科・国語の中でもそう位置付けているということで、2年生の教科書99ページに「新聞投書から言葉を考える」というものが掲載されています。私はこの「障害に違和感、こう呼んでは？」これに対してどういうことを思っているかという、まるで道徳の教科書のような感じがしたのですが、道徳の本を読むにしても、国語力がないとやはり内容に入っていけないので、こういった取り上げ方で、これを国語の教科書として味わっていく、理解していく、そしてSDGsという観点につなげて考えていくということが非常に分かりやすいと思い、そのようなメモを残しておりましたので、この選択は良かったなと考えています。

### 教育長

学びナビというものは本当に効果的に学力を上げることに繋がっていくのではないかと、理解力を上げることに繋がるのではないかと。それからSDGsの視点がしっかりと教科書の中に明示されていることも、これからの国語教育の中で重要な課題を提供しているのではないかと御意見でした。そのほかにはよろしいでしょうか。

続いて、書写にいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 塩谷委員

こちら4社とも本当にそれぞれ特徴的で工夫を凝らされているなというところで、悩ましいところがありましたが、この教育出版の教科書の構成というのはすごく語を目的的に扱っているなと感じました。最初の「目的に合わせて書こう」というところからはじまるのですけれども、今、なかなか書くということ自体が少なくなっています。スマートフォンやパソコンで打つことが、小中学生の中心になっているのかもしれませんが、その目的、場面で文字を使うというところで、場面設定と、なぜそれが求められるのかという目的に合わせているという点がはっきりと出ているのかなと思いました。章ごとのテーマがシンプルだけどすごくはっきりしているものですから、そういう意味では「なぜ、今、書写を学ぶのか」というところの基本的な事がスッと入ってくるなど、この教科書を読んでみて感じました。横広で見やすいということもありますし、教師として教えやすいという視点もあるので、その辺りを踏まえると、教育出版の書写を富士市で取り扱うのはふさわしいのかな、と考えています。

### 教育長

目的に合わせて書こうということが、教科書の扉に書かれています。私も思うのですが、デジタル時代になぜ手で書くのか、ということの意味が、子どもたちにしっかりと明確に示された上で書写に向かうということがこの教科書の中に根付いているということを感じました。

## 保科委員

巻末の漢字一覧表ですが、先ほど部首による配列という話がありました。他社では人名用漢字表というものを扱っているものがあります。こちらの教育出版では取り扱いがないのですが、その代わりとっては何ですが、小学校で学習した漢字一覧表というのが付いていまして、小学校の漢字がまだ不足している生徒に対しては、非常に良い教材になっているのかなと感じられました。

## 教育長

漢字一覧表というのは、書写の基本や筆を使う基本を学んだ上で、実際に自分の名前を書いてみようとか、色々な文字に触れあってみようといったときに非常に必要になってくるものですから、子どもたちにとって小学校で何を学び、中学校でどう積み上げていくかという漢字の形の基本を学ぶのに使いやすいのではないかと思います。

## 松田委員

重複しますが、筆やペンで書くことは大人になると少なくなってくるのですが、この時期にやはり筆をもって、目的に合わせて書くというのは日常生活のなかに文字というものを取り入れていくということが非常に見やすかったということがあります。また、日常の中に活かすという事、文字と文字の間隔だとかバランス感覚というものもすごく大事だと思いますので、日常の案内文であったりポスターを作ったりだとか、そこにすごく結びついているのが分かりやすいと感じました。

## 教育長

やはり、日常生活の中に文字がどのように活着ているか、日常の中に文字を活かせるということで、つながりを持たせるということですね。

他にはないでしょうか。それでは、国語と書写については、以上で終了いたします。

続いて、社会科に移ります。地理的分野の教科書から御説明をお願いします。

## 学校教育課長

(社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは、委員の皆様の御意見を伺いたいと思います。まず、地理的分野から御意見があればお願いいたします。

私から1つよろしいでしょうか。先ほどの説明の中にありましたけれども、地理の教科書158ページを御覧いただければと思います。この文例に富士市

が作成した津波避難マップというものがございます。富士市の小学校や中学校も記載されています。教科書採択に当たっては、地域の実状と子どもたちの興味・関心等とが重なってくるという教科書の在り様というのは、採択に大きな要素を占めます。そういったところで、子どもたちにとっては自分たちの市の津波避難マップが教科書に載っているということは非常にうれしいことではないかと思えますし、積極的にこの津波避難マップを利用しながら、自分の生活との結びつきを感じながら学びを進めていけるのではないかな、と想像できます。

続いて、歴史的分野についてはいかがでしょうか。

### 塩谷委員

歴史もたくさん検定教科書があったので、非常に難しいところがありました。この教育出版は、目次のタイトルの付け方が非常に秀逸だなと思いました。例えば、208ページの第一次世界大戦の始まりに係る单元ですが、タイトルが「クリスマスまでには帰れるさ」とありました。何かと思ったら、副題で第一次世界大戦の始まりとあります。今までの感覚だと逆で、「第一次世界大戦の始まり」と言葉が先に来て、副題としてこれが扱われると思います。最初に「クリスマスまでには帰れるって何？何が起きたんだろう？」と。たぶん、おや？と中学生が思うところから入れて、学んでいく中で「そうか、そういうことね。」とタイトルに帰って歴史の意義というものが定着するという工夫が見られます。ここだけでなく、全編を通して見られます。例えば158ページでも、タイトルが「たった四はいで夜も眠れず」とあり、これも何かといえば、幕末の開国の始まりということで、すごくインパクトのある題から入って、大事なフレーズが頭に残るという意味では、非常に秀逸だなと思ったのが、教育出版の教科書で感じたところです。

それと、年表についてですが、各社とも、今どの時代を勉強しているかというのを意識して記載されているのを感じました。この点では、教育出版も目次タイトルの上に年表がありますよね。年表の黄色がついたところを学んでいるということが見れば分かります。一方で、教科書の縦のところにも年表を出しているとか、必ず目に触れるところに年表が記載されているとか、そういう教科書もありました。作り方の問題だとも思いますが、自分がいつ・どの時代を勉強しているのかだとか、現在からの距離の遠さを計るとか、そういう意味では、もっと年表を強調するとより分かりやすいのかなと感じました。ただ、全体として、歴史を学ぶことはなぜ大事なのか、どうしたら子どもたちが歴史の勉強に入っていくやすいのか、という所の工夫がすごくされているなという点で好印象の教科書だなと思います。

### 和久田委員

今、塩谷委員がおっしゃったように、歴史の教科書を選ぶのに一番難しかったです。視点によって問いかけや内容のもっていき方が異なってくるので、自分たちが子どもたちに何を伝えたいかということ、自分で判断してこう

だったと思えるような知識にしていかなければならないのでは、と見ると、一番公平に、色々な視点から書かれていると思いました。私たちがなぜ歴史を学ぶのかというと、歴史を学びながら、自分たちはこれからどんな世界にしていって良いのだろうか、という所に絶対につなげていかなければならないのです。この教科書は「歴史学習の終わりに」というところで、私たちはこれからどのような社会に生きていくのだろうかという問いかけがあります。ここは総集編だと思うのですが「歴史を学んできて、こんなことがいっぱいありましたよ、君たちはこれからこの世界をどうしていきますか。」という問いへの誘いがとても上手にできている教科書だなと思いました。お話があったとおり、他社でも色々と工夫がしてあって良かったのですが、私としては教育出版のもっていき方が非常に良いなということを感じました。

### 教育長

今、和久田委員がおっしゃったのは、歴史の教科書は「平らである」ということであり、富士市としてそこを大事にしていきたいということです。歴史の事実を子どもたちがどう見ていくかということは、子ども一人一人が向かい合うことであって、子どもの判断や見方を尊重していくには、それを尊重した教科書がふさわしいだろうということです。

続いて、公民的分野の教科書についてはいかがでしょうか。

### 塩谷委員

これもよく工夫されていて、タイトルが入りやすいなという第一印象がありました。例えば、疑問形から「最も大切な考え方とは何だろう」とか、「なぜ差別が生まれるのだろうか」とか、現代的な課題を子どもたちに問いかけて、一緒に考えさせるという入りやすさがあるなと思います。また、データや統計が的確で豊富だなと思いました。例えば75ページの右上THINK!の欄にグラフがあって、こうした比較から考えさせるという所など、こういう統計データが豊富なのかなど。それによって、そこからまた何を課題として学び取るかということができ、他社と比べてそうした図やデータが豊富だなと思い、非常によろしいかなと思っています。また巻末資料で、憲法もそうですが、関連諸法令の法令集というのがありました。大日本帝国憲法から始まって、民法や男女共同参画社会基本法が抜粋ですが載っています。公民を学ぶに当たって、現在の法令とそれに至るまでの、あるいは学ぶに当たっての資料などを、各社によって、資料の取り扱っているところもあれば憲法だけしか載せていない教科書もありました。やはり議会の仕組みとか、現代の仕組みを学ぶ中で、憲法とか法令にその都度立ち返って学んでいくという法治国家としての基本を身に付けていただくという意味で、非常に使いやすい教科書だなと思ったところです。

### 和久田委員

他社との比較で、64ページから91ページまでにかかるのですが、「自ら人

権を守るために」から始まって「18歳選挙権と私たち」というところにまでつなげていて、自分たちが18歳になったときにどんな思いで投票権をもって選んでいくのかということが、丁寧に書かれていました。ここは、他の教科書会社に比べて取扱い方が上手だなと思いました。またSDGsの観点で、諸課題を取り上げながら、問いかけるような形が結構多いんですね。「…のあり方はどうだろう」とか「…でどうしよう」とか「株式会社って何だろう」みたいな言葉も掲載されています。このような、問いかけに対しそれを学んでいくというもっていき方が非常に分かりやすい公民になっている感じがいたしました。

## 教育長

特に、探究的な学びを富士市として大事にしている中で、データや資料、そういったものが豊富にあって、そこから自分なりの学びを構築していくということ、またその視点を当ててくれているような問いかけ、記事から学ぼうとする子どもを支えてくれているような、そんなところもあるのかなと。最後の法律については、法律家の視点から、さすがにこの視点を大事にされているなと思いました。やはり法治国家である以上、一つ一つ公民的な事象が、どのような法律に支えられているか、ということを確認しながら学ぶということも富士市の子どもたちには大事にしていきたいなと考えております。他にはよろしいでしょうか。

それでは続いて、最後に地図の方をお願いします。

## 塩谷委員

2社とも、すごく工夫を凝らされているな、というのが第一印象です。帝国書院の見やすい・ワクワクするのは鳥観図ですね。例えば53ページ・54ページで、各地域の最初に「ヨーロッパ州をながめてみよう」というページがあります。この鳥の視点で眺めてみると、国境が描かれていなくて、地形や海の様子とかこの山を越えればお城が見えてくるだとか、子どもからすると「ああ、ヨーロッパはこんなふうになっているんだ。」というのが、平面地図や地球儀からでは学べない立体的な学びというものが、すごく内容に入りやすいと思います。併せて、国ごとに線が入っているのですが、まさに大陸をそのまま表現して、国境のない中でのこの形のつくられ方をしているので、全体をとらえるという意味でも、すごく新鮮な視点を与えてもらえる資料なのかなと思います、非常に特徴的で素晴らしいと思いました。

## 教育長

地図帳を開いたときに、ただの地図がそこに描かれているだけではなくて、色々な子どもたちの学びを誘うような仕掛けがされているということですね。私は、良い意味で衝撃だったのが、85ページの資料です。沖縄南部の様子ですね。地図だけではなくて、左下の写真の中で「戦没者の名前が刻まれた平和の礎」という資料が示されています。祈りをささげている沖縄の人々

の姿が描かれていて、礎というもの、そして地図には息づいている人々がそこにいる、そこには文化があるんだ、ということの意味しているわけです。ただの地図帳ではなくて、生活文化と結びついているということ、子どもたちが感じながら地図を眺めることができるようにと、すごく素敵な描き方をされているなと感じました。

### 和久田委員

私は地図を見るときには必ず「見やすさ」を重視していますが、非常に見やすかったですね。文字のフォントも見やすいですし、国の境もすごくよく分かるので、見やすいなと思います。子どもたちも、地図は見やすくないと見ないんです。ですので、そこが第一かなと考えました。また、歴史とつながる部分があることは先ほどお話があったとおり、掲載が連携しているようなかたちで載っていることと、世界と日本との結びつきというのが必ず触れられているのです。例えば32ページ右下ですとか、40ページの右上であったりとか、このあたりで日本とどのように関わってきたのかとか、この国と日本との関係はどうなんだろう、違いは何だろうかといったことについて比較ができることも、非常に分かりやすく示していると思います。

### 教育長

それでは以上で、社会科については終了いたします。

続いて、数学について御説明をお願いします。

### 学校教育課長

(数学に関する教科書の採択案を説明する。)

### 教育長

それでは数学の教科書採択について、委員の御意見をお伺いします。

### 塩谷委員

学校図書の教科書には、工夫が施されていることはもちろん感じます。タイトルのつけ方において「なぜ〇〇〇なのか」という疑問から始まって、それを水先案内人のキャラクターが出てきて、会話形式で進んでいくという構成です。シンプルですが、非常に論理展開が分かりやすいと思います。「ああそうか、そう考えれば良いんだな。」という、論理的な考え方を鍛えるのには、内容に入りやすく進めやすいと思いました。

やはり、中学の段階では数学嫌いや「私は文系だから…」ということがあっては困るというか、生きていくのになぜ数学を学ぶのかというのは、数字とか方程式というよりも、論理的に物事を考えたり論理的に人に伝えたりするにはどういった順序をたどったら良いのかという基本を学ぶのが中学段階での数学だと考えます。その意味で、難し過ぎず、論理とはこういうものだよ、ということ、を自然に丁寧に学ばせてくれる教科書だと感じます。この

会話形式で内容が進んでいくところは、人に伝えたり、疑問を持ったりという考えにもつながっていくのかなと、非常に好印象を持てる教科書でした。

### 教育長

数学的思考というものを大事にしている教科書なのかなということが塩谷委員の御意見としてありました。問題は、課題は分かっているけど、その課題の解決の糸口を必ず見つけられる力があるかということ、子どもによって能力に差があるわけですね。教科書の2人のお子さんの、アニメの顔の表情の中から考えていく視点を少し与えてもらえる。そこから学びの探究の糸口が見えてくるような工夫が施されているのかなということを感じるところでございます。他にはいかがでしょうか。

### 和久田委員

どの教科書も、課題解決へのもっていき方は示されていますね。いわゆる、会社でいうところのPDCAサイクルをまわしていくというのがどの教科書にもあったのですが、この学校図書の教科書については、Qのところに分かりやすく取り上げられています。そういう意味では、先ほど話題に上がった課題に対し、どうアクションをかけていくのか、子どもたちのもっていき方や解決方法として「こういうこともある」「こういうこともある」というところを示していて、分かりやすいというのが1点です。それと、解いていく中で、なぜその結論に至ったのか自分で説明していく「説明しよう」という項目があります。これが子どもたちにとって非常に大事なところかなと思えました。どう説明していけば分かりやすいのかということを含めて学んでいくのは、色々な教科の枠を飛び越えて良いのではないかと考えました。

### 教育長

185ページの間3のところですね。途中から読み上げますが「…このとき三角形の形が変わっても変わらないものは何ですか。またその理由を説明しなさい。」これからの数学の学びの中で、説明をするということは非常に重要視されていることで、普段の授業を通して、それを学んでいく。全国学調でもそういう「…説明をしなさい。」という問いは頻繁にでてきますので、普段の授業の中からそうした力を育むことができるのかなと思います。やはり「説明」というのは非常に大事です。たぶん、これからの授業の中ではここ以外にも、教員が「説明」というものを重視した授業展開が意識されていくのではないかなと思います。

### 和久田委員

158ページにもそれがありました。「説明する力をつけよう」という所がありまして、こういう形で説明する力を身に付けさせるのかと思ったところがありまして、これは良いなとチェックしておりました。

## 教育長

説明する力というのは、これは本当に新しい学力の中で重要な力になります。ただ内容を説明しなさいと言っているだけでは力は付かないので、こうした力を付けるために、何をどのように論理展開していくのかという、塩谷委員からのお話もありましたように、説明が説明として成り立つのかということを知るのかなと考えています。

では、数学の教科書については終了いたします。

続いて、理科の教科書について、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(理科に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは理科の教科書採択について、委員の御意見をお伺いします。

## 保科委員

啓林館の教科書には、中にサイエンス資料というのがありまして、10ページ資料①とか、126ページ資料②など、理科の実験の注意点等、非常に詳細に記載されていて、こういったものがあれば、実験をする生徒も安全に実験ができそうだなという印象を持ちました。

## 教育長

理科では、安全に正確に、実験器具を使うというのは必須です。やはりデータをとるにも、正しく取り扱わなければ正しいデータがとれません。そういった視点をしっかりと抑えてくださっているのは学ぶ側にとってもありがたいですね。他にはいかがでしょうか。

## 松田委員

今まで見た教科書に書かれている内容と比較して、これからの子どもがどう使うのか、未来に向けての視点を考えると、理科という科目が「理科」と書かれておらず「サイエンス」と書かれていたり、自然の中で、自然というものに対して、富士市の探究というところと、一番最初に探究をはじめようと載っていていいかなと思いました。それから、探究に対してどうやっていくかということが載っていること、また、写真の構成がダイナミックに使われているところも、1年生の子どもたちが理科を嫌いにならないように配慮されています。自分たちの生きている中で自然と融合していくという意味でも、使える教科書なので、そういう構成がされていて良いなと思います。子どもたちが興味を示すことで、学校の先生も、生徒に教えるに当たって、授業の空間の中でコミュニケーションをとりやすいのではないかと考えています。

## 教育長

理科好きな子どもを育てたいという願いが込められていて、写真も非常にダイナミックに使われており、子どもに寄り添っているなどと思います。214ページを見て、思わずニコッとしてしまいました。これは動物好きな子どもたちにとっては、非常に親しみを持てる写真です。大自然の偉大さを理解できる資料もたくさんありますね。38ページの動物の写真ですが、走る躍動感、動物らしさがよく分かります。全般を通して、理科好きの子どもを育てたいという思いが非常に伝わってきます。しかも扉を開ければ、探究という言葉がいきなり出てきますので、理科好きな子どもを育てながら、探究を深めていくという教科書のコンセプトがよく分かります。

## 塩谷委員

教育長がおっしゃったとおり、どの教科書でも探究というところが意識されていて、分かりやすく作られていると思います。詳しく書かれている教科書もあれば、分かりやすさに比重を置いている教科書など、各社に特徴があって、これは本当に選ぶのに悩みました。

今の探究の説明においては、最初の4ページにある「探究とは」で「物事の真相・価値・あり方などを深く考えて、筋道をたどって明らかにすること」とあり、そうした上で下の方に探究のフローが描かれています。疑問から始まって、課題、仮説、計画、結果、考察…と、この考え方でやっていくと理科の勉強も楽しくなるし、すんなり入っていくよ、というための道標であり、教える先生にとっても分かりやすいので良いと感じました。本当に、各社ある中でもフローの示し方が丁寧ですし、先ほどの数学の話に出た、論理的な考え方というものが、数学とともに理科学的分野でしっかり基本を固めてあげようという点で、親切な教科書だと思ったところです。

## 教育長

理科の教科書は、文字の量と写真データとのバランスが非常に重要ですね。文字がたくさんありすぎても、教科書を開く子どもたちにとって「文字が多い」だけでチカチカしてしまう。逆に、かつての教科書の中には、あまりにも文字が少なすぎたものがありまして、何を求めているのか、何を目指していけば良いのか分からない教科書もあったのですね。ちょうど、文字において「ここはしっかり押さえておいてください」という部分と、わくわくする写真データの量とのバランスが、非常に良いというのが、この啓林館の教科書からは、感想として感じるところでございました。

他にはよろしいでしょうか。では、理科は以上とします。

続いて、音楽の教科書について、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(音楽に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

音楽教科書の一般と器楽合奏についての説明でした。まず一般のほうで御意見はございませんでしょうか。

## 塩谷委員

音楽そのものを嫌いな子というのは、たぶんほとんどいないと思うのですが、音楽という教科になると、途端に苦手意識を示してしまう子はそれなりにいるのではないかと考えています。そういう中でも、音楽は最初の上白石萌音さんが「音楽の一員になれる時間」と、インパクトのある入り方をしています。音楽の楽しみ方は1つではないし、音楽を聴くのもよし、演奏するのもよし、作るのもよしと、色々な楽しみ方があるんだよと、シンプルに示してくれているな、という印象を持っています。

一方で、もう一冊の方も、すごく工夫されていたのですが、どちらも非常に情報が多くて丁寧に言葉なども書かれているものですから、先生方が上手く説明をかみ砕いて、生徒が音楽嫌いにならないようにしていただけるのかなと思いました。伝え方の課題もあるかと思ったのですが、そういう意味では、硬派なところもあり、一方で色々な楽しみ方を提案してくれているという意味では、非常に秀逸なのかなという印象を持ちました。

## 松田委員

小学校までの音楽は、歌を歌ったりして楽しくということですが、中学生になりますと、だんだん音楽というものに、どうしても苦手意識をもつ子どもが出てくるのかなと思います。その中で「音楽って何だろう？」で「一生を通して楽しむもの」とありまして、野口聡一さんがコメントを書いているところにすごく意外性があります。ちょっとしたことでも「あ、そうなのかな。」と読んで、音楽に入っていけるし、一生通して楽しんでいける。そうした意外性があるって良いと思います。

## 和久田委員

私たちが習ってきた音楽というものは、日本の歌を歌うことが多かったのですが、今時の子どもたちが興味を非常に持っているであろうところは、たぶん36、37ページ辺りだと思うのです。イメージと音楽というのは、自分たちの社会の中でとか、ゲームの中でとか、映像の中で、どんなふうに音楽が使われていて、どんなふうにそのイメージを膨らませるために作られているのか、ということも含めて勉強できるところが良いですね。ただ歌を歌うだけではなくて、どんな効果を期待してそれをその場面で使うのか、どんな効果を期待して誰に向かって歌うのか。卒業式には卒業式の歌を歌いますが、そういったことと関連付けて学べるような感じがして、非常にとっつきやすい教科書だなという印象を持ちました。

## 教育長

イメージを広げるために音楽の効果音、そういう見方があるんだなということですね。これを見ると、子どもたちも、音楽に対する親近感がわくと思います。ここに「ゴジラのテーマ」がありますが、これは私が生まれた時から聞いていますので、あの音楽を聴くとゴジラが動き出すのがよく分かりますね。そういう楽しみもあるし、私は学校教育課長から説明のありました64ページの聞き比べの中で、アジアの諸民族の音楽っていうのに非常に興味を持っていますね。実際に音が聴けるのかな、聴けたら楽しいだろうな、と感じました。そうした興味を引く部分と、学びの部分がしっかりとミックスさせることが大切ですね。19ページの学びのコンパス「旋律の特徴や曲の構成を捉えよう」を御覧ください。やはり学ぶとなると、「楽しむ」ための音楽の「楽」だったら非常に子どもには良いのだけれど、音楽のガクが「学」になってしまうと抵抗感があるのかもしれないと、塩谷委員のお話を聞いて感じました。上手に「学」ぶという部分を取り入れていかなければならないので、教科学習につなげるために、そこをどういうふうにとったら良いか、コンパスというところで入りやすく、工夫されていることが教科書から見て取れますね。

それでは続いて、器楽合奏について、御意見ををお願いします。

## 塩谷委員

こちら甲乙をつけ難いのですが、いずれの教科書も子どもたちに少しでも分かりやすくしようとする工夫があることが分かりました。ただ、先ほどの説明に合ったアルトリコーダーの件ですね、ここはやはり富士市の、しかも先生方が使いやすいというお話もありまして、やはり色々な楽器を子どもたちにやっていただく中で、先生方が使いやすいという感想を持つということは大切な視点なのかなと思ったものですから、そうした意味で、富士市のアルトリコーダーを使う教材が多くて、それで教科書選定に入っているという事情もあるわけで、先生方の研究の御推薦のものがよろしいのかなと思います。

## 教育長

富士市の中学生はアルトリコーダーを学びます。小学校でソプラノリコーダーを使い、中学校でアルトリコーダーに入った瞬間にすごく悩みますね。しかし、教科書にアルトリコーダーの絵が描いてありますよね。丁寧にアルトリコーダーとの出会いを10ページ、11ページに描いていただいている。指の置き方もソプラノリコーダーとは違いますね。そここのところがしっかり描かれており、分かりやすいのかなと思いますね。

それから、17ページを御覧ください。「アーティキュレーション」という言葉が出てきます。音楽の授業内ではこの単語は出てくるのですが、なかなか教えるのは難しいのかな、という感想を持っていました。しかし、この教科書では、しっかりと、アルトリコーダーの総合の中での、アルトリコーダ

一らしさというものを醸し出すのが、この「アーティキュレーション」なんですけれども、そこを丁寧に分かりやすく教えようとしているところも、子どもたちにとっても嬉しいのかなと思います。富士市の子どもたちにはふさわしいと思います。それでは、音楽については以上とします。

続いて、美術の教科書について、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(美術に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは委員の皆様、美術に関する御意見ををお願いいたします。

## 塩谷委員

先ほど話に上がりましたが、小学校から中学校にかけて何が変わるか、例えば算数から数学へ、図工から美術へと、そういったところで子どもたちが構えてしまうという発想があるのかなと思います。小学校からの連続性というところへの丁寧さは、すごく感じました。図画工作から美術へというところで、子どもたちの写真とか岡本太郎さんの写真だとか、すごく導入を丁寧にやっただけしているなど好印象を持ちました。また、生徒の作品も結構掲載されていて、世の中で素晴らしいと言われているものを見て鑑賞しようとするだけでなく、自分たちと同じ立場の生徒が作った作品を、こういうのも芸術なんだとか、こういったものを見てどう思うのかとか、そういった入り方ができるかなと思います。美術は好き嫌い、得意苦手がはっきりと出やすい教科なのかなと思ったのですが、そういうことばかりではなくて、こういった生徒作品もまた芸術であり、随所に散りばめられていて、色々な感想をもってもらえるという意味で、入りやすい教科書なのかなと感じました。

## 松田委員

美術の教科書を見させていただいて、すごく素晴らしいものだったと思います。表紙の触った感じから、興味を喚起し、中身に興味を持ち、教科書を開こうとする、手の感触で誰にでも伝わるなど、感覚的などころから入れるのだらうと思います。

写真の構成が、大きくもあり小さくもありと、説明にもあったとおり、美術を通じてアニメーションやレタリングなど、より美術を通して、自分ももしかすると職業観で、こういうものもありかもしれないという、伝わりやすい何かのきっかけになるかもしれません。いろいろなものが可能性につながるものだと思います。どの職業に対しても、芸術的な要素というのはありますので、選択肢を提示できるという点でも良いと感じます。

## 教育長

他にはいかがでしょうか。

教科書研究委員会の報告書では、開隆堂出版の教科書の特徴として、作品の背景の色に白を基調としているという報告があるのですね。教科書を見ると、確かに背景は真っ白ですが、そこから浮き出ている作品そのものは鮮やかに、際立って見えてきます。教科書に載せる作品をいかに印象付けて美しく、作品そのものに集中できるような工夫をされているかということに教科書研究委員会の報告がされています。特に、22・23ページを見ると、作品が目の前に飛び出してくるようなイメージがあって、作品を描写する工夫がなされているなど、感じたところでございます。

## 和久田委員

オリンピックや、ラグビーの選手のユニフォームのデザイン等、身近なところのものを取り扱って見せていただいているので、子どもたちもとっつきやすいのかなという感じがします。もう一つは静岡県の伊藤若冲さんの絵や、プラモデルの看板等が掲載されているなど、実物を見てみたいと思ったときに、実物を見に行くことができるので、美術において本物を見ると大分感覚が異なるので、本物を身近で見られるものが教科書に掲載されているというのは、富士市あるいは静岡県の人間からすると、すごく親近感の湧くような教科書になっているのかなと感じました。

## 教育長

私、触った瞬間にあれ？と思いました。子どもたちは、図画工作の時代には水彩画ですので、油絵というものとなかなか触れ合う機会はないのですね。美術部の子どもたちは触れると思いますけれども。油絵というのは、こんな感じなんだと、教科書から感じるができる。和久田委員がおっしゃったように、本物の油絵はどんな感じなのか、見てみたいと思えるようになりませぬ。

その他にはよろしいでしょうか。それでは、美術については以上とします。続いて、保健体育の教科書について、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(保健体育に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは委員の皆様、保健体育に関する御意見をお願いいたします。

## 保科委員

こちらの東京書籍のテキストは、巻末のスキルブックが秀逸なんですよね。他の出版社には、私が見る限りなかったなと思います。その中で、178ページの「リラクゼーションの方法」という所で、自分がストレスを受けたときこんなふうに対処するといいいよ、だとか、186ページ・スキル10の「コミュニケーションの方法」、スキル11の「インターネットによるコミュニケーション」

ョンとトラブル」など、私たち自分の身の回りでのトラブルに対して、こういう方法で対処できるよ、といったヒントが与えられているんですね。

また、183ページのスキル6「AED（自動体外式除細動器）」の動かし方もまとまっているということで、これだけでもそばに置きたいなと思えるような形になっており、非常に魅力的な書籍になっているのではないかなと思います。

### 教育長

巻末スキルブックですね、命を守るために非常に大事な、保健体育で命を繋げていく教科書ですので、そうした意味では、スキルの側面から支えていく教科書になっていくのではないかなということですね。

### 松田委員

表紙に「イキルをマナブ」と書いてあったので、非常に印象的でありました。それと、生きるために色々なことを保健体育で学んでいくに当たって、今の時代だったらアレルギー、自己形成、ストレスなどに関して取り扱っており、今新しい時代に対して、中学生のうちからそれらを学んで覚えていくことが、対応策となって身に付いていくと思いますし、大事なことだと思います。自分で自分のことを知るということも大事なことです。ただお医者様のところへ行って聞くだけでなく、なぜそうなったのかということについても教えていただくことはすごく大切なことだと思います。

### 塩谷委員

東京書籍は、目次を見た瞬間、けっこう硬派というか「硬いな」という印象をもって、しかし中身を見るとすごくシンプルで、文章とともに資料がついており、その辺のバランスが非常に優れているのかなと思いました。活字が多すぎず、かといって写真が多すぎずというバランスです。他の会社の教科書でも、データや写真を多めにして少し文字数を絞るとか、子どもたちがどうしたら内容に入っていくやすいか工夫を凝らしていることはうかがえるのですが、その中でも、学びやすく、バランスもとれているのかなと思ったところです。ただ、情報量はかなり多いと思ったものですから、先生方にどうメリハリをつけながら子どもたちに大事なところを教えていただくかということの研究をしていただければと思います。

### 教育長

情報量は、確かに多いようですね。私は、保健の教科書を見比べるときに、一つの視点として、性教育をどう取り扱うのかということを考えます。包括的性教育が叫ばれている中、性というものに対して、個人の尊厳、相手への尊重、異性に対する尊厳、そういったことが今の性教育の中で非常に大事にされています。これまでは生殖器官と男女の違い、身体の違い等に焦点が当てられていたのですが、これからはそうではなく、共生社会の中で、多様性

の中で、性というものはただ身体だけの問題ではなく、心の認知というものが大切なんだと言われていています。そういったことを大事にしている教科書なのかなと思います。例えば36・37ページの部分は、中学生の性に対する関心、性情報への対処の方法だとか、色々性と性の問題にしっかりと向き合っているなど感じました。

ほかには御意見はございますか。それでは、保健体育を終了いたします。続いて、技術家庭の技術分野の教科書から、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(技術家庭に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは委員の皆様、技術家庭に関する御意見をお願いいたします。

## 塩谷委員

まずインパクトがあるのは、教科書のタイトルが非常に前向きということで、ハッとさせられる、わくわくするところの入りがすごく良かったと思います。「企業ではどのように製品開発を行っているのかな？」から入って、技術の製品開発について学ぶということで、非常に製造業が盛んな富士市で扱う教科書としては、子どもたちも興味を持ちやすいし、入りやすいのかなと思ったところが第一印象です。

また、もう1つ秀逸だと思ったところは、先ほど学校教育課長から御説明がありましたが、50・51ページの問題解決の手順というところですね。問題の発見と課題の設定をした上で、構想と設計を行い、製作をして成果の評価と改善を行うという、このフロー図は学ぶ上で大切なところですし、これは色々な生活のところで、どういう仕事についても役に立つ基本的な発想なのかなと思ったものですから、この辺りが非常に使いやすいのかなと感じたところです。

## 教育長

私もこの50ページの問題解決の手順について、技術科の授業の「ものを作る」ということがメインのように感じるのですが、実は「ものを作る」ことによって何を指すかという、人々の幸せだと私は思っているのですね。ここに掲載されている生活の中で必要なこの本棚ですね。本棚を作るに当たって、以前なら材料が用意されていて「こんなものを作るのだよ。」と提示して、誰もかれもが同じ本棚を作って、その出来栄を評価していました。これからは、そうではなくて、作品を作るということは何を目指してものを作るのか、そこにはやはり問題解決という流れがあります。「自分たちの身の回りの製品には問題解決するための目的に応じて開発されたものが多い」と最初に書かれていますが、非常に良い言葉だと思いました。

生活するためにいろいろなものが目の前にあるけれども、これは生活を良

くするためにあるのですね。例えば自分のおじいさんおばあさんが、生活に困っている様子を見て、何とかおじいさんおばあさんが生活しやすいようなものを作ってあげよう、例えば、掴まって歩く道具を作ってあげようなど、そういう発想で子どもたちが作品と向かい合うということができたら、どんなにもものづくりの意義があるのかなと思っています。そういう「問題を目的に応じて」という言葉が、本当に技術科の教科書としては価値がある表現なのではないかな、と感じます。

### 保科委員

それに関連して、285ページのインタビュー「やりたいことを実現させよう」では、プログラミングの開発者のお話が掲載されていたり、左側のプログラミングロボットの開発者が中学生だったころの記事が非常に興味深いと思います。

### 和久田委員

同様の内容ですが、各単元の終わりにインタビュー記事が載っていますね。104ページではアナログのものづくりのなかに「日本一かわいいものをつくる家具屋さんを目指して」とか「好きなことを仕事に、造船の道へ」など、子どもたちがどうやって学習を職業と結びつけていくのか、ということが分かりやすいですね。これをやっておくと、将来こういったことができるんだなというところに結びついていくのが、見えるような教科書になっていて、そこはとても良いなと思いました。

私も企業でもものづくりをやっておりますので、本当にアナログのものづくりの箇所は会社の教科書に欲しいくらい丁寧に書いてあって、高校を卒業して入ってくる人たちにこれを渡したいと思っているくらい非常に良い出来栄で作られているなど、びっくりしました。こういうものがあると子どもたちもものづくりの世界に入ってきてくれるのではないかと思います。

### 教育長

このものづくりと人とを、すごく上手く繋げています。生活・人・ものを繋げていく作り方をされているなど感じますね。

それでは、次に家庭分野についてはいかがでしょうか。

### 松田委員

先ほどの技術分野と同じで、「自立しともに支え合う生活へ」とあるように、自立するために必要なものが盛りだくさんありますね。昔の家庭科と違って、自立するために自分自身が身に付けることや、人がどう自立しているかということが客観的に書かれています。1ページCの「消費生活・環境」のところですが、高校に行くともっと詳しく消費のところを学習します。何のために学ぶのかというと自立するためなので、中学の時からこういうことの入りをしっかりと教えられるというところと、内容が一つ一つ身近なもの

を使われているので、一緒にこれで学習していただきたいと思います。

### 和久田委員

美術にしても技術にしても、いわゆる主要5科目ではないものではありませんが、およそ主要5科目で習ったことの集大成が描かれるのはこういう科目で、これから生活をしていくのに必要な事に繋げていくところになっていくのだと思います。お料理にしても化学反応を起こすわけで、サイエンスで習ったことは、そのお料理のなかに生きていたりだとか、色を出すにしても化学的な問題があったりだとか、この教科書を見ながらすごくそういうことを感じました。私たちが生きていくために必要なことを多くの学習の中から学んで、「さあ、これからこういうことができるようになっていくんですよ」という位置付けをもって教えていただけると、この教科書がもっともっと生きてくるのかなと考えました。教科書自体がそんなふうにとまとめられているので、先生方ももっていきやすいのかなと感じる教科書でした。

### 教育長

他教科の横断的な学びの関わりということが意識されている、そしてその集大成として自立と共生に向かっていこうとする。社会づくりの中に、家庭科の授業が結びついていく。一番最初にある自立という言葉、共生という言葉、非常にインパクトがありまして、自立というのは、共生という言葉と重なって自立ができるのかなと考えます。共生を意識しない限りはそこにあるのは自立ではないという考え方も、確かにそうなのかなと思います。そういった考え方のもと、この教科書が作られているのかな、と。だんだん学びを深めていくことによって、子どもたちは社会の中の自分を見付けることができるような教科書なんだな、ということが理解できました。

そのほかにはよろしいでしょうか。それでは、技術家庭を終了いたします。続いて、英語の教科書について、御説明をお願いいたします。

### 学校教育課長

(英語に関する教科書の採択案を説明する。)

### 教育長

それでは委員の皆様、英語に関する御意見をお願いいたします。

### 塩谷委員

どの教科書も、中学の段階で結構難しいことをやるのだなと感じました。情報量という意味では、英語の教科書ということで、なるべく日本語を使わずに英語に親しんでもらおうという、硬派な教科書なのかなと思いました。ただ、これからの時代、国語とともに、外国語に慣れ親しんでいこうというなかで、小学校から勉強は少しずつ始まっております。我々の頃の当時と比べスタート地点が違うというので、その情報量の多さ自体は確かに必要にな

っていくと思います。その一方で、取り残される子どもたちを救わねば、「英語を聞くだけでも嫌だ」なんていう子どもを作らないようどう工夫が求められるかというところがあります。そうした意味で、4人の水先案内人のキャラクター設定で、4人の成長の物語みたいなかたちで、ストーリー性をもって展開されていくという、そのつくりが分かりやすく面白いなと思いました。キャラクターと共に、成長していくんだという、内容への入りやすさはすごく良かったと思います。ここを上手く先生方に使ってもらいつつ、英語を身近なものとして入っていけるよう、教材研究を進めていただけると、情報量がたくさんある分、より学びたい人にはより多く学べる教科書になるのではないかと思います。上手く使っていればよい学びになると思います。デジタルコンテンツが突出しているという先生方の評価もあったものですから、その辺りも耳で聞く英語、話す英語というあたりもデジタルを上手く使ってもらって、やっていただければ良い方向へ進むと思います。

### 和久田委員

日本の英語教育はなかなか難しいことをすごく感じていて、実際に海外に出ていったときに、文法を知らなくてもコミュニケーションは取れたりするんですね。どこを目指すのかというのが、とても難しい問題ですが、私はやはり、子どもたちには英語を喋れるようになってほしいということを一番に思っています。この教科書では会話形式での進め方が多いですし、物語にしても、社会性のある話題を選んだり、ニュースを選んだりとなっております。また、各1・2・3年生の全てで、一番最後の方にスモールトークというのが掲載されていて、ここで使われた単語を使ってこんな会話ができますよ、といった例文がでています。こういうものがあると、何かあったときにこれを使えば、きちんとしたコミュニケーションが長くつながらなくても、話しかけることができる、ちょっと答えることができるなどだけで、英会話をやってみたいと考える子どもたちが増えてくるのではないかと思います。そういう意味で、とっつきやすい教科書になっていて、とても中学生の英語というのには向いているなど、考えておりました。

### 保科委員

英語のストーリーを読むとき、ニューワードをどこに配置するかというのはすごく重要なところだと思いますね。文章の左側にあると、ニューワードが目に入ってからストーリーに入り、文章の右側にあると、どちらかという文章を読んでからニューワードが目に入るわけです。この教科書は、2ページのニューワードが右側のページの右側に、一番目立たないところにあるんですね。そういう意味では、ニューワードを意識せずに読める人は読むし、ニューワードが分からない人はこの右側をみれば良いということで、非常に、上級者で英語の得意な子も、初級の子でも良い配置になっているのではないかと思います。他の会社さんは、こういった配置をしているところはなかったと思います。

## 教育長

ニューワードとの出会いというのは、昔は単語カードを使っていました。今はあまり使われませんが、教科書の中にニューワードというのが掲載され、右側に置いたり左側に置いたり、配慮がすごくされているなと思いました。

先ほど和久田委員がおっしゃられましたが、どの出版社の教科書も、子どもたちが英語を話せるようにしたいというねらいがあるかと思います。日本の長い英語教育の課題は、小学校からずっと中学・高校まで学習しているのに、他国に比べて実際に話すことをしない。やはり母国語である日本語の使用が、小学校から大学まで続いていることで、他国と隣接する大陸国に比べ、島国の日本は、切実に英語の必要感というものを感じることがありません。英語の学習時間と身に付ける力がなかなか並立しません。でも、やはりどの教科書会社も会話・対話を中心として、できるだけパフォーマンスさせることで対話力をつけたいというのはねらいとしてあると伺えました。その中で、報告書によると、東京書籍のこの教科書は、異文化理解を深める題材、環境や平和など世界的問題、プレゼンテーション能力の向上、グローバルな話題や今日的課題が多く取り上げられている、とあります。やはり、ただの英語の外発的動機付けよりも内発的動機付けが非常に重要だと思います。自分の気持ちを伝えたい、さらには聞きたいなど、コミュニケーションをいかに取りたいと思う気持ちに学び手になるかということに子どもたちを置けるかどうか、ということですね。小学生なら、ゲームをやりながら、外発的動機付けのなかで英会話を行いパフォーマンスする場合がありますが、それだけでは本当に英語力は身に付かないのではと思います。自分の思いを英語で伝えたいんだ、英語を通して海外の姿を学びたいんだ、という内発的動機付けが非常に大事だろうと思うのです。その意味で、この教科書はそうしたところで充実しているという報告があるようです。確かに、44ページの映像、それから海外の色々な文化の映像、89ページのインドのタージ・マハルとか、多様な国の文化というものとの窓口になっているな、というのを感じています。

子どもたちのグローバル意識とか、国際的感覚を何とか自分の中に取り込めるきっかけになる良い教科書だなと感じたところでございます。

最後に、道徳の教科書について、御説明をお願いいたします。

## 学校教育課長

(道徳に関する教科書の採択案を説明する。)

## 教育長

それでは委員の皆様、道徳に関する御意見をお願いいたします。

## 塩谷委員

道徳の教科書は6社ありましたね。どの教科書も特徴と工夫がある中で、

あかつき教育図書の教科書ですが、最初の目次のところを見て、割とシンプルだと思ったのですが、その次の4ページでしょうか、ここに各目次のテーマごとに改めて配置し直しているあたり、視点として分かりやすいし、先生方も授業を組み立てやすいのかな、というところは思ったのが一点です。

また、各単元の一番最後に「自分を見つめて考える」「考えを深める」2つの問いが設定されています。最初は、問いがすごくシンプルだったので、もっと突っ込んで、考えを深めるための質問があっても良いのではと思ったのですが、一方で、むしろそこは教科書の方から促すよりは、先生方の工夫や子どもたちがどう考えるか、といったように、変に視点やヒントを与えずに先生方の授業力に委ねた方がうまくいくのかなと思ったところです。見ていただくと、問いはどれもシンプルです。ここは考えさせてほしいけれど、そこ以外は、それぞれの先生方が頑張って工夫してくださいね、というメッセージなのかなと思ったときに、何か答えを見つけるというよりは、自分の考えを相対化して、それを検証して、また人の意見を学んで、と。答えは一つではないし、色々な角度や立場があつていいと。それを相対化する中で、先生方が上手く良い方法へ導いていくという事であるとすれば、教科書は使いやすいというか、道徳教育において変に押し付けやヒントがないぶん、シンプルで良いのかなと思います。

## 教育長

今の塩谷委員の御指摘は、採択連絡協議会の中でもやはり話題になりました。教科書を選定するに当たって、挙げられている内容、題材もあかつきについては今日的な話題だったり、いじめ問題であったりと、整理されていて良いのだけでも、単元の最後の箇所が話題になりました。例えば27ページ「いろいろな見方で考える」や「考えを深める」が教科書に記載されていることについてどう捉えるか、ということが話題になりました。例えば、「考えを深める」の「集団に流されてしまう弱さを乗り越えるためには、どのようなことが大切なのだろう」というところで、その大切な視点を求めるために授業はされるのかどうか、大切さとは何かということをいくつか取り上げていくことに授業が向かっていくとなると、色々な人間の生き方や色々な見方があって、これからは広がっていくのだということを考えなければなりません。そして、これからも考え続けていく姿勢というものが大事なのですね。これが絶対的な価値だという時代ではありませんから、教科書を扱う指導者がきちんと意識していく必要がありますね。ですので、この教科書を取り扱うに当たって、道徳研究会の中でも、教科書の使い方について、決して道徳的価値を一つに集約させてしまうような使い方をせず、あくまでも考える視点であつて、考えを広げていく大切さを生涯にわたって求めていくという視点が大事だろうと。そういうことをしっかり認識しながら教科書を進めるなら効果はあるだろうな、という話が出ていました。その点については、この場で、委員の皆さんの御意見をしっかりと賜っていく必要があるのかなと、改めて考えました。いかがでしょうか。

## 松田委員

本当に考えることが大事という中で、子どもたちも多種多様な環境で、多様な考えの下、一人一人が成長し、共生・共存していくなかで話し合われることがすごく大切だと感じます。あと1つ、道徳に対して多様性を認めるとか友情・公平とかいろんな価値観が変わっている気がしています。

とても興味があったのは、3年生教科書の78・79ページの「分身ロボットカフェへようこそ」です。これは、最近私たちも割と目にするAIロボットが運んでくれるというものですが、実はそれだけでなく、それを利用して、人がオーダーを聞くお店には出られないけれど、遠隔操作できちんと働いているという、そういったことも、今の時代に合わせた題材を入れて考えさせる点ですごく良いのではないかと感じました。

## 教育長

今の時代に合わせた題材ですね。確かに、見ますよね、こういう食事を運んでくるロボットをね。

## 松田委員

ちゃんと、ロボットのいるその先には人がいるんだよ、と考えさせる題材です。中学生に向けての学びの題材として、すごくいいなと思います。

## 教育長

デジタル社会とはいうけれど、その向こう側には人がいるんだということですね。先ほど話題に上がった、プログラミング学習も、どうプログラミングするかというところに、人の愛情だとか人の優しさだとか、そうしたものがそこに存在してこそそのプログラミングが組み立てられるので、一時的・表面的には単にロボットが運んできたということであっても、そこには人がいるんだよ、ということですね。そこを改めて考えさせるのは、現代的な視点での教材内容だなと思います。

## 和久田委員

視点をどのように持つかというのはすごく難しく、先ほどの歴史の話と同じように、やはり平らに見て自分の意見を決めていくということが大事なんだという事を教えていく。集団の意見に引っ張られるのではなく「自分はこう思うよ。」ということと言える人間になっていくということがとても大事なことだと思います。また、とっつきやすい方々がたくさん出ていますね。大谷翔平さんとか、羽生結弦さんとか。大谷さんのマンダラチャートの図は会社でも全員に作らせたくらい、自分ならどんなマンダラチャートを作る？と。応用が利くもの、自分だったら…と思わせるようなことがたくさんあり、3年生の教科書の最後の176ページに、里中満智子さんの「小さな手鏡」という題材を出しているのですが、私はこれがまさにそのことを言っていて新聞記事を読んで記事をもって「私だったら…」と考えるという事が描かれて

いるんですね。自分とは何であるのかということ、道徳の中で学んでいき、自分自身を確立していくというところの助けになる題材が多数あるという感想を持ちました。

### 教育長

教科書採択連絡協議会の中で、教科書研究会から報告を受けた中で、このあかつきの教科書に変えるに当たって、どこが良いのかという話の中で、一番最初に出たのは、教材の質だということでした。和久田委員からありましたように、挙げられているテーマ、題材が非常に今日的であり、身近でありそして学ぶべき内容が記載されている。だから、研究会としてはこれが富士市の子どもたちに学ばせたい教材であると、強く推されていました。そのように採択連絡協議会でも協議されました。そして今、お話があったとおり、確かにそうした教材が載っているの、子どもたちには学ばせたいなという御意見でした。

ほかにはよろしいでしょうか。では道徳については以上とします。

それでは、これまで御説明いただきました10教科16種目の教科書の採択案について、一括してお諮りしたいと思います。委員の方々、御意見をいただきありがとうございます。それら御意見を踏まえながら、10教科16種目の教科書の採択案に同意するという事によろしいでしょうか。

(委員から「異議なし」の声あり)

### 教育長

全員、御異議なしと認め、議第29号案は承認いたしました。

続いて、議第30号「富士市立高等学校教科用図書採択について」を取り上げますので、事務局の説明をお願いします。

### 富士市立高等学校副校長

(議第30号 富士市立高等学校教科用図書の採択について、採択案に至るまでの経緯を説明する。)

### 教育長

ただいま説明していただいた、議第30号案について質疑をお願いします。

### 塩谷委員

こちらは、新しく科目を設置するに当たり、新規にこの教科書を採択するという事によろしいですか。こちらの教科書を選ぶに当たり、この教科書の一番の特徴的なところはどのようなところでしょうか。

### 富士市立高等学校副校長

この科目を取り扱う教科書会社は、実教出版の1社のみです。特徴としては、各章ごとのはじまりに、必ずねらいというものが設定されています。例

えば、8ページを御覧ください。必ず節や章のところにねらいとして「どのような特徴があるのだろうか」などが設定されています。子どもたちが学習で得た知識技術を使った後に、自ら考えたり課題を設定したり、また、教員側からも見通しが立てやすく、子どもたちにも復習しやすい構成となっております。同様に、58ページを御覧ください。第9節食生活の課題となる単元ですが、こちらのねらいとして「実現には何が必要か考えよう」とか「何が大切か考えてみよう」というねらいが最初に打ち出されております。子どもたちの最終目標はそこであり、そのねらいに基づいた学習展開がしやすいという構成となっております。

### 塩谷委員

丁寧な御説明ありがとうございます。今、拝見しますと、もともと家庭基礎でもこの実教出版のテキストを使われていますね。そういう意味でも教えやすかったりということもあろうかと思いました。今の説明でよく分かりました。ありがとうございます。

### 和久田委員

8ページの家庭科という教科のところで、家庭基礎は、総合探究とスポーツ探究の1年生で履修し、ビジネス探究では2年生で履修することになっているようですね。3年生の全学科で、この生活産業基礎という科目と教科書を使う流れになるのですか。

### 富士市立高等学校副校長

まず、高校教育課程には、普通教科・家庭科と、専門教科・家庭科がございます。「家庭基礎」は普通教科・家庭科としての取り扱いになります。こちら「生活産業基礎」は専門教科・家庭科の選択科目です。3年生の選択科目のうち、英語や数学といった複数ある選択科目の中の1つで、希望者がこちらを選択するという科目になっております。

### 教育長

「生活産業基礎」は、専門教科・家庭科の、選択科目という位置付けということなのですね。

富士市立高校として、この教科書の一番の理由は、「ねらい」という項目が各章の頭にしっかりと明確に示されているので、何を目指して学ぶのかというのがはっきりしているという点でした。これを大事にして、この教科書を選んでいきたいということですね。

他に御質問はございませんでしょうか。質問がないようですので、議案に対する質疑は終了いたします。それでは、議第30号案は原案のとおり承認してよろしいですか。

(委員から「異議なし」の声あり)

## 教育長

御異議なしと認め、議第30号案は承認いたしました。これをもちまして、本日の審議事項は全て終了致しました。

引き続き、各課等の予定事項をお願いします。

教育総務課長、学校教育課長、学務課長、社会教育課長、文化財課長、中央図書館長、富士市立高校事務長、教育研修・特別支援教育センター所長、青少年相談センター所長、博物館長の順で説明

## 教育長

ただ今、説明のありました各課の予定事項につきまして、何か御質問がございますか。

## 和久田委員

無限∞のキズナには、出発式はございましたか。

## 社会教育課長

はい、出発式は8月11日に行います。ただ、基本的に出発式の時間を長くはとっていないものですから、皆さまを御招待まではしてはおりません。

## 教育長

一応、時間を教えてもらえますか。

## 社会教育課長

はい、少々お時間をください。

## 教育長

分かりましたら教えてください。

1つ私の方からお聞きしたいのは、18ページの特別支援研修センターで行われる8月19日～22日の4日間で行われる「イングリッシュ・アドベンチャー」というのについて、少し説明していただけますか。昨年からリニューアルとのことでしたが。

## 教育研修・特別支援教育センター所長

小・中学生がALTと英会話で交流するということで、英会話体験を行っておりました。昨年少しリニューアルしまして、子どもたちが、ハンバーガー店を模したブースで、実際に体験をするということでした。子どもたちもすごく喜んでくれていましたし、ALTとしても、普段の授業の中でも子どもたちと、直接、マンツーマンで話をするのはあまりないものから、実際に子どもたちが困っているときにどうやってヘルプしたら良いかなど、非常に勉強になったということです。

## 教育長

昨年も4日間行ったのですね。リニューアルということで、お店やブースが増えたのですか。皆さんにもお話します。ハンバーガー店の店員の衣装、グッズをしっかりと借りてきて、店員やお客さんになりきって、臨場感のある英会話を学んでいく。それを、ホテル、ハンバーガー店、空港の入国審査官、お土産屋さんなど、実際の場面を作ってその中で子どもたちが実際自分が色んなブースを回って、臨場体験をしていくというものです。これを改めて実施していただけるということですね。よろしく申し上げます。楽しみにしています。

他にはいかがでしょうか。

## 社会教育課長

先ほどの無限∞のキズナの出発式ですが、8月11日、7時45分頃です。

## 和久田委員

そのときには、塩谷委員らは、御一緒に出られるのですか。

## 社会教育課長

保護者の方は、バスの見送りはしないということになっております。教育委員として、塩谷先生と保科先生には、8月12日、13日の御視察をいただく予定です。

## 教育長

他に御質問はありませんか。ないようですので、次回の教育委員会会議の日程を申し上げます。8月21日(水曜日)午後1時30分から市庁舎5階第3会議室にて、教育委員会会議を開催いたしますので、よろしくお願い致します。

本日は、長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。これをもちまして、本日の定例会を閉会とさせていただきます。皆様、お疲れ様でした。